

平成18年1月16日

## 6号機原子炉建屋1階二重扉の同時開放について

当所6号機は定期検査中ですが、平成18年1月14日午後9時40分頃、原子炉建屋1階南側二重扉\*において、作業員が原子炉建屋から移動しようとして内側（原子炉建屋側）の扉を開けた際、外側（タービン建屋側）の扉が開き、同時に開放した状態となる事象が発生いたしました。ただちに当該作業員が内側扉を閉めたことにより、同時開放状態からは復帰しました。

なお、その際、原子炉建屋の負圧を検知している警報の発生はありませんでした。

当該二重扉は、扉が閉じていることおよびカンヌキが出ていることを検知し、反対側の扉が操作できる仕組みとなっております。

調査したところ、外側の扉の状態を検知するスイッチが変形し誤動作していたこと、および外側の扉が正しく閉められない状態でカンヌキが出されていたことがわかりました。

今回の対応として、扉の開閉状態を検知するスイッチの修理を行うとともに、今後、扉が正しく閉められた状態でカンヌキが出されたことを検知するようスイッチの位置を変更いたします。

また、扉を閉める際は、カンヌキが正常にかかったことを確認する旨の注意喚起の表示を行うことといたします。

なお、現在、当該二重扉は通行禁止としておりますが、修理が終了次第、通常に復帰いたします。

本事象による外部への放射能の影響はありません。

以 上

### \* 二重扉

原子炉建屋は事故時に放射性物質を閉じ込める機能を有しており、このため同建屋内を常時負圧に維持する設計としています。出入口は原子炉建屋の負圧を維持するために二重に扉を設置しており、同時に2つの扉が開かない設計となっています。



当該二重扉(6号機原子炉建屋外側)



当時、正常な位置にロックされていなかったカンヌキ



正常な位置にロックされたカンヌキ

## 6号機二重扉同時開放状況図